様式３

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式【作業療法学専攻】

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部・学科等の名称	専任教員数								非常勤教員	専任教員一人あたりの在籍学生数	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	基準数	うち作業療法士数	助手			
作業療法学専攻	4 人	3 人	1 人	3 人	11 人	6 人	7 人	0 人	22 人	7.3 人	
計	4 人	3 人	1 人	3 人	11 人	6 人	7 人	0 人	22 人	－	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	９割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	８割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3

○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野（基礎・専門基礎・専門）	指定規則 教育内容	相当授業科目名	担当コマ数	担当教員	
				氏名	職名（専任・兼任）
基礎	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	学びのリテラシー(1)	15	平尾一樹、他	専任
		学びのリテラシー(2)	15	吉田秀文、他	兼任
		英語	30	岡田和子、他	兼任
		スポーツ・健康	30	新井淑弘、他	兼任
		データ・サイエンス	15	鈴木裕之、他	兼任
		教養系 人文、社会、自然科学、健康科学、外国語教養科目、総合科目	90	村田祥子、他	専任・兼任
専門基礎	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	15	三井真一	専任
		解剖学Ⅱ	15	三井真一	専任
		解剖学実習Ⅰ	23	三井真一、他	専任
		解剖学実習Ⅱ	23	三井真一、他	専任
		生理学Ⅰ	15	藤田行雄	専任
		生理学Ⅱ	15	藤田行雄	専任
		生理学実習	23	山路雄彦、他	専任
		人間発達学	15	十枝はるか、臼田滋	専任
		運動学Ⅰ	15	臼田滋、他	専任
		運動学Ⅱ	15	臼田滋、他	専任
		運動学実習	23	臼田滋、他	専任

専門基礎	疾病と傷害の成り立ち及び回復過程の促進	栄養学	15	大山良雄	専任
		基礎医学Ⅲ(薬理学)	15	大西浩史	専任
		臨床医学総論	15	大山良雄	専任
		救急医学	8	横山知行、篠崎博光	専任
		臨床病態学Ⅰ(内科)	15	久田剛志、他	専任
		臨床病態学Ⅱ(小児)	15	久田剛志	専任
		神経内科学Ⅰ	15	藤田行雄	専任
		神経内科学Ⅱ	15	藤田行雄	専任
		整形外科学Ⅰ	15	田鹿毅	専任
		整形外科学Ⅱ	15	田鹿毅	専任
		精神医学Ⅰ	15	菊池千一朗	専任
		精神医学Ⅱ	15	菊池千一朗	専任
		精神医学Ⅲ	15	菊池千一朗	専任
専門基礎	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	チームワーク原論	8	篠崎博光、他	専任
		全人的医療論	8	小澤厚志、他	専任・兼任
		統合保健医療論	8	岡美智代、他	専任・兼任
		地域保健医療推進論	8	佐藤由美、他	専任
		社会福祉論	15	牧野孝俊	専任
		健康教育論	15	石川麻衣、他	専任
専門	基礎作業療法学	機能解剖学	8	山路雄彦、他	専任
		基礎作業療法学Ⅰ（概論）	15	李範爽、他	専任
		基礎作業療法学Ⅱ（作業学・研究法）	15	平尾一樹、他	専任
		基礎作業療法学実習	23	平尾一樹、他	専任
専門	作業療法管理学	作業療法管理学	15	平尾一樹、他	専任
専門	作業療法評価学	言語障害治療学	8	山路雄彦、山上徹也	専任

		作業療法評価学Ⅰ（基礎・共通領域）	15	田中浩二、李範爽	専任
		作業療法評価学Ⅱ（障害領域別）	15	十枝はるか、平尾一樹	専任
		作業療法評価学実習	23	李範爽	専任
専門	作業療法治療学	作業療法治療学Ⅰ（身体障害系）	15	李範爽	専任
		作業療法治療学Ⅱ（精神障害系）	15	平尾一樹	専任
		作業療法治療学Ⅲ（老年・高次脳系）	15	田中浩二	専任
		作業療法治療学Ⅳ（発達障害系）	15	十枝はるか	専任
		作業療法治療学演習Ⅰ（身体障害系）	30	李範爽、下田佳央莉	専任
		作業療法治療学演習Ⅱ（精神・発達系）	30	平尾一樹、十枝はるか	専任
		作業療法治療学演習Ⅲ（老年・高次脳系）	30	田中浩二、他	専任
		作業療法治療学演習Ⅳ（ADL・生活行為）	30	田中浩二、他	専任
		先端医学研究論	8	三井真一、下田佳央莉	専任
		国際リハビリテーション学	8	李範爽	専任
		卒業研究Ⅰ	23	菊地千一郎、他	専任
		卒業研究Ⅱ	45	菊地千一郎、他	専任
専門	地域作業療法学	チームワークトレーニング	30	篠崎博光、他	専任・兼任

		地域リハビリテーションマネジメント学	8	田中浩二	専任
		地域作業療法学	15	田中浩二、十枝はるか	専任
専門	臨床実習	地域作業療法学実習（通所・訪問系）	23	田中浩二、他	専任
		見学実習	23	十枝はるか、他	専任
		作業療法総合評価実習	90	李範爽、他	専任
		作業療法総合臨床実習	360	田中浩二、他	専任
		臨床技能評価実習	23	平尾一樹、他	専任

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
病院等のリハビリテーションの見学 対象者の評価を主体にした実践	2 年後期 3 年前期	作業療法評価学	2 年後期
		作業療法治療学	3 年前期
通所・訪問リハビリテーションの見学	3 年後期	作業療法治療学演習	3 年後期
対象者の評価から治療を含めた実践	4 年後期	臨床技能評価実習	4 年前期

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	保健学科カリキュラム評価委員会
委員名（委員長）	評価委員会：大山良雄（委員長)、金泉志保美、横山知行、小林匠、菊地千一郎、篠崎博光、近藤浩子、岡 美智代
組織の開催頻度	評価委員会：不定期
組織の取り組み内容	・評価委員会は「群馬大学医学部保健学科の教育課程における教育内容、方法等に係る自己点検・評価及び改善実施要項」に基づき自己点検・評価を行い、教育課程責任者（保健学科長）へ報告する。
自己点検・評価結果の公表	ＨＰで公表（URL：https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out006/out006_001/g107799）

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する仕組み	名称	保健学科教務部会
	委員構成等	久田剛志（委員長)、近藤由香、小澤厚志、國清恭子、大西浩史、松井弘樹、山路雄彦、李範爽、川島智幸
	改善の仕組みの実際	・現状のシラバスの記載状況を踏まえて、大学教育・学生支援機構教育アセスメント委員会が取り纏めた「シラバスの記載状況を踏まえた要改善事項について」に基づき、保健学科教務部会を通じてシラバス作成での留意事項を各教員に周知している。

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

自己点検・評価及び第三者評価の結果について、改善計画の策定及び実施が必要と認められた場合には、保健学科教育課程専門委員会において改善計画を策定し、教育課程責任者（保健学科長）へ報告し、教育課程責任者は、改善計画を大学教育・学生支援機構大学教育センター学部教務委員会へ提出する。改善計画の見直し等について指示があった場合は、保健学科教育課程専門委員会にて対応することにより改善に取り組んでいる。